

緑の相談所だより

編集・発行

財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑の相談所

No.97

発行日 平成17年12月 1日

講習会のご案内

畑や花壇の雑草（旭川の身近な帰化植物）

と き : 12月 4日(日)

じ かん : 午後 1:30 ~ 3:30

講 師 : 旭川帰化植物研究会 塩田 惇 さん

定 員 : 50名

お申し込み・お問い合わせ先

電 話 **(0166)65-5553**

旭川市緑の相談所まで、お気軽にお電話ください。

講習会の参加料は無料です。どうぞ、興味のある方はお気軽にお申込み下さい。
詳しくは緑の相談所 職員までお尋ね下さい。なお、定員になりしだい募集は締め切らせていただきます。お早めにお申込み下さい。

年末年始の休館等のお知らせ

平成17年12月26日(月) ... 開館します

平成17年12月29日(木) ... 臨時休館します

平成17年12月30日(金) ~ 平成18年1月4日(水) 休館します

1月5日(木)からは通常通り開館いたします。

カランコエ

ベンケイソウ科 カランコエ属 karanncoe

アフリカ東部、マダガスカルを中心にエチオピア、アラビア半島、熱帯アジア、ブラジルなどに分布し100種以上あるといわれています。現在栽培されているのはマダガスカル原産のプロスフェルディアナ系の改良品種です。



特 性

多年草で低木状の多肉植物です。葉腋や頂部からの集散花序に、赤い小さな花が密生する可憐な姿が人気の的ですが、最近は種間交雑の改良で花の形や色が豊富になってきました。

秋から冬にかけて咲く人気の鉢花で、たくさんお店に出回るのもこの時期です。

置き場所と管理

良く陽の当たる窓辺に置くと良く育ちます。水やりは開花中も必要ですが、基本は鉢土が乾いてから十分に灌水して、鉢皿には水を溜めないことです。肥料は夏の生育期には10日に1回、1000倍の液肥をやり、開花期や冬期は1月に1回程度で充分です。

秋に購入した開花株は3月頃まで楽しんでから刈り込みと植え替えをすると良いでしょう。

その年の10月に入ってから、午後5時から翌朝8時までダンボールなどで暗くして短日処理を開始します。

毎日繰り返して40日間くらい実施すると12月頃には花がたくさん咲きます。

展示室の植物たち シリーズ「5」

ガジュマル

クワ科 フィクス（イチジク）属 *F.microcarpa* L.f.

【 長い気根が絡み合って太い幹を作り始めました。 】

熱帯樹木としてよく見かける木です。温室開設時に植えられた幼木が大きくなりガジュマルの樹姿になってきました。

この木は、日本（種子島、屋久島、琉球諸島）、台湾、中国南部、マレーシア、ミクロネシア、熱帯アジア等の熱帯、亜熱帯に分布しています。

熱帯では他の木の上に発芽し寄生したものが、生長とともに気根を伸ばし、やがて枝葉を茂らせて元の木を包み込み、その木を絞め殺してしまうそうです。熱帯アジアでは20メートルにも達する高木の常緑樹になります。お馴染みのインドゴムノキ、ベンジャミナ、インドボダイジュ等も同じ仲間になります。

12月の園芸作業

1 鉢花類

シクラメン、ハイビスカス、エラチオールペゴニア等は日当たりの良い場所に置き、極薄い液肥(1500倍程度、10日に1回)を与えましょう。特にシクラメンは高温を嫌うので、夜は暖房の無い場所に移動しましょう。

ポンセチア、カランコエ等の短日処理中のものは蕾がつくまで時間を守って覆い作業を続けます。

クンシランは花茎の上りを良くする為に10度程度の低温で管理し、花茎が伸びてきたら居間に置き、水と肥料を与えましょう。

アザレアは陽が当たらない場所でも咲くので温度の低い場所でゆっくりと咲かせましょう。

観葉植物の殆どが暖房による空気の乾燥を嫌うのでこまめに霧吹きをするか、葉面を濡れた布で拭きましょう。また、低温で落葉することもあるので15℃以上で育てましょう。

休眠中のサボテン類(親株)の水やりは春まで中止しましょう。クジャクサボテンも水やりを中止し、無暖房の室内で夜間凍らない程度の温度が下がる場所で休眠させ、夜間照明が照らす室内には置かないようにしましょう。サンスベリアは最低7～8℃まで下がる室内では水やりは中止しましょう。

2 洋ラン類

シンビジウムの花茎が伸長し始めた鉢は、日中日当たりの良い場所で温度は10～15℃を保ち水は5～7日に1回たっぷり与えましょう。

デンドロビウム ノビル系は花芽分化の始まる大切な時期ですので日中20℃以下、夜温も7～10℃で管理し、水は控えめに与えましょう。

コチョウランは最低気温が18℃以上保てば、水は乾いたら与え、開花中の鉢を除き肥料を与えましょう。

カトレアの冬咲き系はシースの中に蕾が膨らむ時期です。支柱を立てて花茎を固定し、水は4～7日に1回程度与えましょう。

1月の園芸作業

1 鉢花類

今年の栽培計画をたてましょう。

厳冬期の管理で一番大切なことは室温の変化、特に最低気温が何度になるかによって水やりや施肥に違いが出てきますので注意しましょう。

シクラメンは花や葉が傷んできたら花茎をねじって引き抜きます。

アマリリスが休眠から覚め、芽が出てきた場合は植替えをして、居間等に移して、水やりし、加温しましょう。

アザレアは開花中の株は10～15℃となるべく低い温度で育てて、1500倍の液肥を週1回程度やると花が長持ちします。また、花が終わったら直ちに花柄摘みをしましょう。

ハイビスカスは雪降り等の為、光線不足で花つきが悪い時期です。伸びすぎている場合は切り戻して側枝を出しましょう。

シャコバサボテンの花が咲き終わった株は2～3節つけて切り取り、挿し木しましょう。

正月に鑑賞されたハナウメの盆栽等は、花が終わると芽の出ないうちに戸外に出し、枝が折れないように囲い等をして雪の中に戻しましょう。

2 洋ラン類

シンビジウムは蕾が20cm以上成長した鉢は15～20℃に温度を上げると生育が進み、開花中は最低10℃以上で管理し、肥料は与えない。

デンドロビウム ノビル系は花芽が確認できるまで、12月同様低温で管理しましょう。

コチョウランは冷え込みが激しくなる時期ですが夜間最低気温18～20℃を確保し、併せてバットに水を入れタオルを敷き、その上に鉢を置く等の湿度対策も行いましょう。

カトレアの開花中の鉢は温度13～23℃を保ち、水は多めに与えて良いが、コチョウラン同様湿度対策を保つ工夫をしましょう。

シクラメンの花を長く楽しみましょう！！

今年もシクラメンの季節が来ました。綺麗に咲いたシクラメンを手に入れても、長持ちせずに萎れてダメにした経験をお持ちの方も多いのではないのでしょうか？

今回はそのシクラメンの花を長く楽しむための手入れの要点を少し述べたいと思います。

1 温度の管理

花が早く終わってしまう大きな原因は、夜間の温度が高すぎることです。

シクラメンの快適な温度は次のようになります。

- ・ 昼間は20 前後。 夜間は10～15 で 15 以上は禁物です。
夜間温度が高過ぎる場合は、家の涼しいところへ移動させます。
- ・ 温風が直接当たるところも絶対にいけません。
- ・ 店などから購入する時、店から車までや家までの間に、寒風にさらされると蕾や芽がダメになります。僅かな時間でも保温に留意する必要があります。

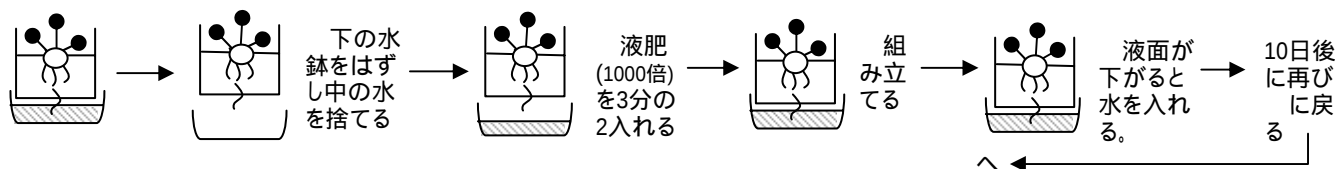
2 水やりと施肥について

普通鉢の場合

- ・ 水やりは土の表面が乾いたらたっぷりと与える(受皿に水が出るまで与え、受皿に溜った水は捨てる)
2～3日に1回が目安ですが、部屋の状況によって変わりますので乾きを見ることが大切です。
- ・ 施肥はハイポネックス等の液肥を1000倍に薄めて10日に1回程度水の代わりに与えます。
- ・ 水や液肥は球根や葉にかけないように葉を手で押さえながら鉢の縁に沿って注ぐようにします。

底面灌水鉢の場合

- ・ 常に水鉢の液面は3分の2の高さにするように水を与えます。
- ・ 施肥は水鉢の水を1度捨てて1000倍に薄めた液肥を3分の2の高さまで入れます。



3 葉 組 み

シクラメンは球根の中心部に光を当てることが大切ですが、葉柄や花梗が絡み合って中心部が葉で覆われている鉢を見かけることがよくあります。この葉柄等の絡みをほどき、葉を出来るだけ鉢の縁に開くことを葉組みといいます。このようにすることによって店で販売されているような良い形のシクラメンになります。



葉組み前。葉が茂っていて株の中心に光が当たらない状態。



葉組み後。真ん中が開いたので日光が良く当たるようになる。

4 そ の 他

- ・ 萎れた花や葉は見栄えが悪くなり、また病気の原因にもなりますので直ぐに根元からねじりながら引き抜きます。
- ・ アブラムシやオンシツコナジラミが発生したら直ちに殺虫剤で防除します。
- ・ 葉や花に斑点が出来たり、カビが見られたら直ちに殺菌剤で防除します。
- ・ 花が終わり、葉も落ちた場合は鉢ごと乾燥させて涼しい所に保管し8月中旬頃に鉢に植え育てます。
- ・ 花が終わり、葉が元気な鉢はそのまま育て、夏になったら涼しい木陰等に置いて育て、8月中旬に植替えます。